

実験工房

第2世代シリーズ電源、BC80A22Ver ×2、BC24A22Ver ×2を使い、山水の往年の名機 AU-X11の電源を改造した報告です。

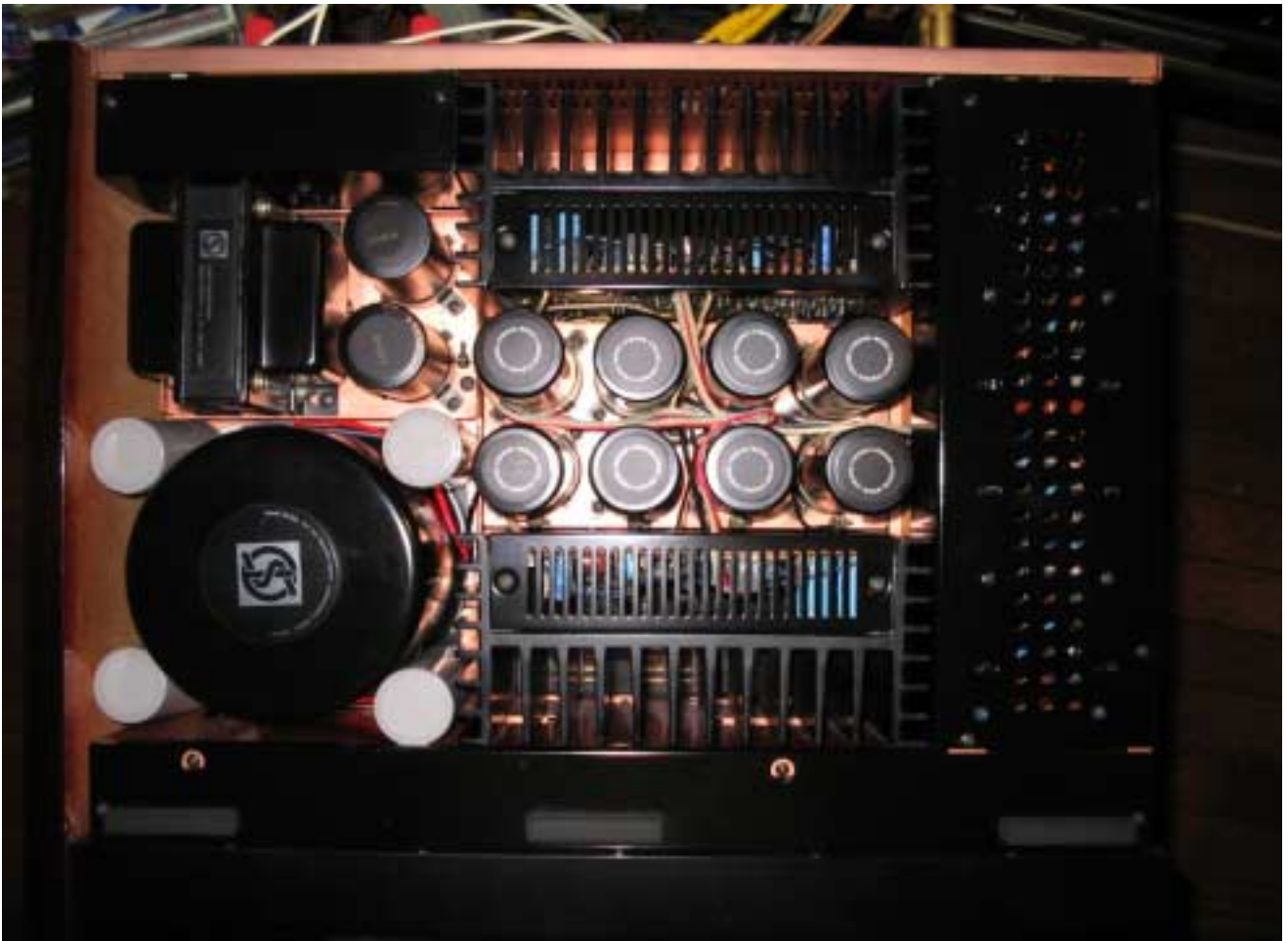
AES 東京コンベンション2005で技術発表した第2世代シリーズ電源を古いアンプに載せかえただけで、欠落していた音声信号すべて再生され、CDをヘッドフォンで聴いたときの音がそのままSPから再生されるという、改造した鈴木さんのコメントです。

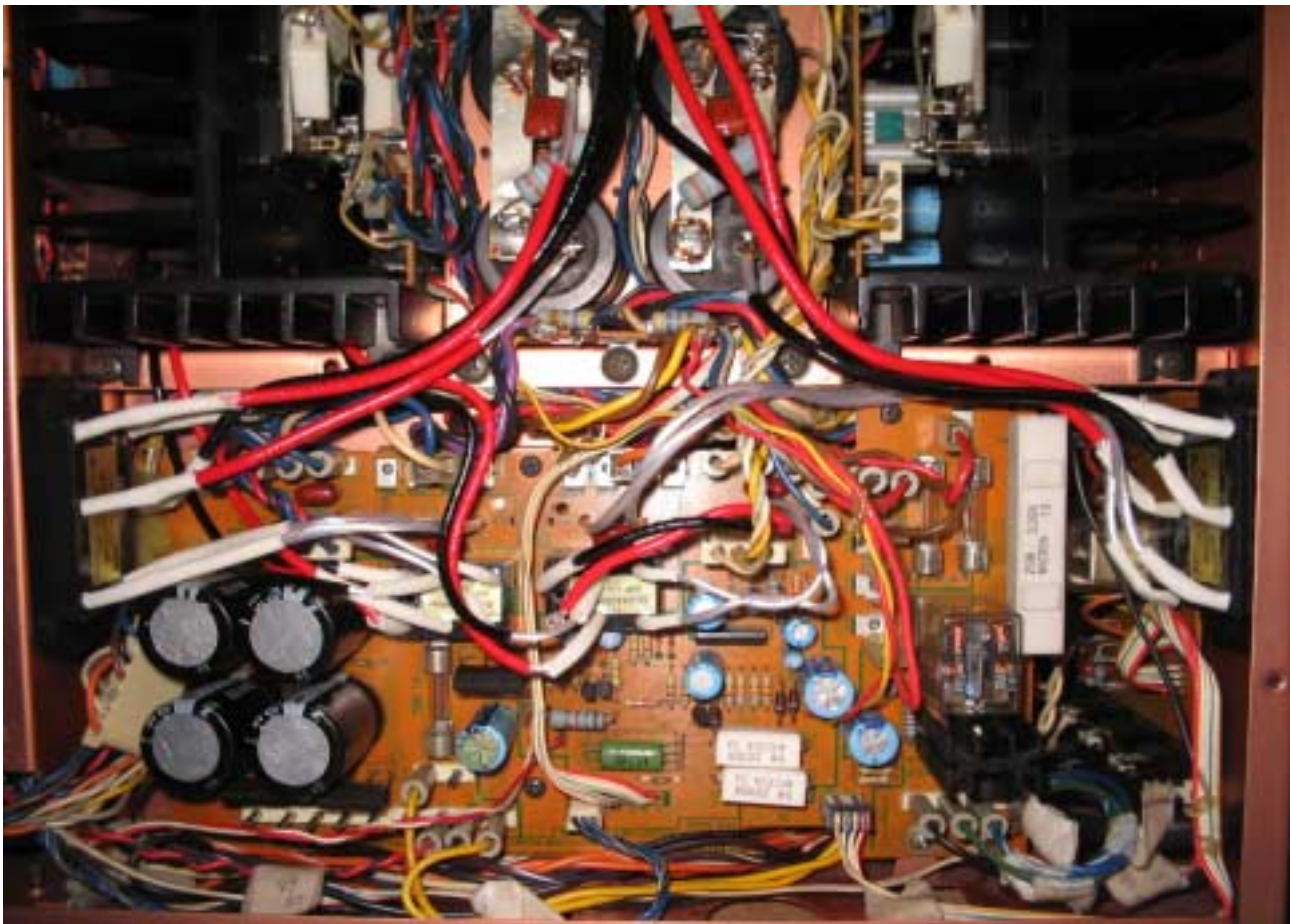
当初、単純SBD化した時点でもすでに音の変化が著しかったのですが、パワー段のみ2世代化した時には、圧倒的なパワー感がましました。しかし、音の質感が鋭くエッジの立つ感じがして、中高域の荒さが目立つ感がありました。のちに、その理由が判明しました。それは、ドライバー段の電源を2世代電源に進化させた時に明確に判明致しました。ファイナルのドライブ能力の向上に伴い、全段の欠点を再生してしまった為だと思われます。

2世代にした途端、表現力が増し従来のCDからは予想以上のニュアンスが伝わります。また、CDプレイヤー固有の音が感じられるようになりました。その時、うちの家内の友人（以前、僕が悪さをしたアンプを持って行った知人の奥さん）が同席していましたが、音を聞いた途端に鳥肌が立って感激していました。予測のとおり、現段階ではTRアンプに勝利があるようです。下手なワイヤリングですが、写真をお送り致します。ついつい、理論がない大容量コンデンサーを付加してみましたが、評価はいまいちでしょうか。

やはり、無駄なお金と労力をかけないで、出川さんのおっしゃったことを聞くべきだった気が致します。（Cは10,000 μ Fがベストだったそうです。）







パワー段 BC80A20HVer × 2 ドライブ段 BC24A20HVer